

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：82611

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01767

研究課題名(和文)トラウマ関連障害への認知処理療法の均てん化のための包括研究

研究課題名(英文)Comprehensive research for dissemination of cognitive processing therapy for trauma-related disorders

研究代表者

堀越 勝 (Masaru, Horikoshi)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・認知行動療法センター・特命部長

研究者番号：60344850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、認知処理療法(CPT)について3つの研究(個人版CPTのランダム化比較試験、集団版CPTの前後比較臨床試験、CPT心理教育マテリアルの開発)を実施してきた。加えて、我が国におけるPTSD関連疾患の病態理解のための大規模なインターネット調査の論文化を進めてきた。個人版CPTは全ての患者登録を終え、解析まで進むことができた。集団CPTについては論文投稿まで至った。CPT応援マンガ等の導入資料を開発した。大規模な調査の結果についても、ICD-11やDSM-5の診断基準比較、罪悪感、感情調整など、様々な病態理解に資する検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、PTSDへの第一治療選択のひとつとされている認知処理療法(CPT)が日本においても有効で安全であるかを検証する研究に取り組んできた。本研究期間において、個人版CPTの臨床試験を終え、集団版CPTの論文化を進めることができた。また、CPTを広く正確に知ってもらうための様々な資料を開発することができ、今後の社会実装に役立てることができると期待できる。また、日本人を対象としたデータにより、PTSDの病態理解や、CPTの治療メカニズムの解明に資する調査研究も進めることができた。それらは世界的にも新たな学術知見として、国際雑誌に公表されている。

研究成果の概要(英文)：Our research involved three different studies centered on Cognitive Processing Therapy (CPT) to enhance the treatment and management of post-traumatic stress disorder (PTSD). This included a randomized trial examining individual CPT, a pre-post study for group CPT, and the development of psychoeducational materials to support CPT. Simultaneously, an extensive Internet survey was conducted to better understand the pathophysiology of PTSD-related disorders within the Japanese population. The individual CPT trial has moved into the data analysis phase. Psychoeducational resources, ranging from subtitled video demonstrations to an FAQ document for CPT implementation, have been developed. Additionally, we have analyzed and published the large-scale survey results in international journals and conferences, enriching the understanding of diverse pathological conditions, such as guilt and suicidal ideation.

研究分野：臨床心理学

キーワード：心的外傷後ストレス障害 PTSD ト라우マ 認知処理療法 認知行動療法 集団療法 心理教育マテリアル 病態理解

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

我が国における深刻な社会問題の一つとして、心的外傷後ストレス障害 (Posttraumatic Stress Disorder; PTSD) 患者への適切なケアの不足が存在している点が挙げられる。PTSD とは、トラウマティックな体験をした人が、再体験症状、回避行動、覚醒亢進、そして認知や気分の変化によって生活に支障を来している状態を指す。日本における PTSD の 1 年間の有病割合は 0.4% であり、これを単純計算すると毎年約 51 万人が PTSD に苦しむと推定される。しかしながら、ほとんどの患者は、適切な心理的・医療的ケアを受けていない現状があると推察される。

診療ガイドラインでは、トラウマに焦点を当てた認知行動療法 (CBT) が第一治療選択として推奨されている。そのなかで、認知処理療法 (Cognitive Processing Therapy; CPT) は有効性について最も研究知見の蓄積がある心理療法のひとつと言える。代表者らの研究グループは、CPT を日本に導入するための研究を進めてきた。その過程で、個人 CPT や集団 CPT を実施するためのマテリアルや訓練体制を整備し、予備試験を進めてきた。個人 CPT については、より厳格なランダム化比較試験への準備を行い、H30 年度までに 23 例の登録まで達成していた (目標症例数 58 例)。

2. 研究の目的

本研究は、PTSD とその関連障害への治療とケアの向上と拡大を目的として、以下の 5 点を検討することを目的とした。

1. 評価者盲検ランダム化比較試験による PTSD への個人 CPT の有効性の検証
2. 治療プロセスや大規模調査データの解析による PTSD の病態や治療機序の解明
3. CPT の神経基盤と治療反応性を予測する神経マーカーの同定
4. CPT 導入のための集団での感情調整プログラムの検証や、集団 CPT の検討
5. 当事者参画による CPT 心理教育マテリアルの開発とその適用拡大

3. 研究の方法

個人 CPT のランダム化比較試験

デザイン：評価者盲検、単施設、並行群間、介入 16 週、割付比 1:1、優越性試験 (表 1)

実施場所：国立精神・神経医療研究センター (NCNP) 病院

表1. 臨床疑問の定式化(PICO + T)

Participants	18-70歳の心的外傷後ストレス障害患者58名が
Intervention	通常治療に加えて認知処理療法を実施すると
Comparison	通常治療のみに比して
Outcome +Time	CAPS-5においてより顕著な症状の改善を示す 症状の評価時期は、登録より17週後である。

参加者：18 歳以上 70 歳以下で、Clinician Administered PTSD Scale (CAPS-5) にて PTSD 診断を満たす患者を対象とした。重度の物質使用障害、躁病エピソード、精神病性障害、著しい希死念慮、CPT 実施が困難な程度の身体疾患や認知機能障害が認められる者は除外対象とした。通常治療対照の RCT による効果サイズ (Hedge's $g = 1.40$ [95%CI 0.85-1.95] ($k = 4$, $N = 299$))、CAPS-5 平均値の群間差 $\alpha = 0.05$ 、検定力 = 0.9、測定時点を 3 時点 (pre, middle, post)、共分散構造を 1 次の自己回帰構造 (AR(1))、自己相関の範囲を 0.2-0.8 と想定して、

先行研究で示された計算式を用いると、最も保守的には片群 24 名と見積もられ、これに中断割合 22%を考慮して片群 29 名、合計 58 名と例数設定した。

介入群[通常治療+CPT]：CPT は全 12 回、週 1 回 60 分で実施される。前半 6 回は PTSD の心理教育や、認知再構成のスキル獲得が中心である。後半は 5 つのテーマ（安全、信頼、力/コントロール、価値、親密さ）に焦点を当て、回復を阻害する認知を再構成していく。毎週のグループ SV のほかに、開発者の Resick 博士（デューク大学教授）から SV を得ることとした。CPT-Adherence Scale を用いて、録画記録から治療遵守度を評価した。

対照群[通常治療のみ]：我が国での一般的な PTSD 治療である薬物療法と支持療法（日本トラウマティック・ストレス学会, 2013）とし、他の精神療法や侵襲的治療は制限した。

有効性評価：主要評価項目は 17 週時点の CAPS-5 による PTSD 症状の重症度、副次評価項目は治療反応割合とした。他に PTSD 診断の喪失、Clinical Global Impression、抑うつ (PHQ-9)、生活の質 (EQ-5D-5L)、生活機能(SDISS)、自殺念慮(SIDAS)を評価した。割付をマスキングした独立評価者が評価を実施した。

治療機序解明のためのプロセス指標：プロセス変数として、CPT 治療記録やセッション評価票(Duncan et al., 2003)のデータを収集した。治療機序として、トラウマ関連認知(Vogt et al., 2012)、罪悪感(Kubany et al., 1996)、感情調整(Gros & John, 2003)のデータを得た。

神経基盤を解明するための脳画像：NCNP 病院放射線部にて、CPT 前後および追跡評価時で MRI 撮像（3D-T1 強調像、T2 強調像、FLAIR、ASL、拡散強調画像）を行った。

CPT 導入のための感情調整プログラム開発

複雑性 PTSD や境界性パーソナリティ障害など、重度の感情調整障害を示す患者のために開発されてきたプログラムを参考に、我が国の患者に合うよう感情調整スキルプログラムを開発することを検討していた。このプログラムでは安心した環境の中で感情調整スキル（マインドfulness、感情のラベルづけ等）を学ぶことを想定していた。

マテリアル開発

これまで、CPT の治療コンセプトを平易に伝える「CPT 応援マンガ」（分担研究者：大江美佐里）と、DV 被害者団体の当事者からの意見を踏まえて心理教育資料（分担研究者：森田展彰）を開発した。これらの一部は Web 上での配布し、講習等で紹介され、クライアント、DV 被害当事者、支援者、専門家から好評を得ている。こうした利用者のフィードバックを踏まえ、既存のマテリアルを改善させ、新たに追加のマテリアルを作成した。

病態や治療機序の検討

PTSD の病態理解、CPT 治療機序の多角的検討のために、日本全国の 4 万名を対象とした National Survey for Stress and Health を実施し、PTSD 患者 3090 名のデータを得た。詳細は Ito et al.(2019)に記載している。当研究期間においても、これらのデータを用いた二次解析を進めた。

4. 研究成果

個人 CPT のランダム化比較試験

個人版 CPT のランダム化比較試験については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一

時、臨床研究を停止することを余儀なくされたが、その後リクルートベースを回復させ、目標としていた症例数 58 例の登録を終えた（※リクルート終盤に研究紹介が重なったために最終登録数は 60 例の登録となった）。来週登録患者の追跡最終評価も 2022 年 12 月に終了した。その後、データの固定を行い、プライマリアウトカムに関連する解析をブラインドで実施し、さらに、Blinded Data Interpretation まで進むことができた。また、独立評価を行った CAPS-5 についての評定者間一致度に関する評価や、CPT セッションについてのアドヒアランスとコンピテンスの第三者評価も継続した。治療機序やプロセスに関するデータの入力や整備についても進めた。さらに、脳画像データを継続して収集した。また、当研究期間前に実施してきた予備試験の解析や論文文化を進め、Journal of Traumatic Stress 誌に掲載され、プレスリリースも行った (Takagishi et al., 2022)。

CPT 導入のための感情調整プログラム開発

CPT 導入のための感情調整プログラムについては、開発者である Resick 教授を始めとして、研究チーム内でのディスカッションや、文献調査を進めた。コロナ禍において、新たな集団でのプログラムを開発して検証することは困難であると判断し、プログラムの開発をするのではなく、集団 CPT 導入のためにどのような臨床的な工夫をしてきたかについて検討し、日本トラウマティック・ストレス学会のシンポジウムにて発表した。また、それらの検討は、後に述べるリーフレットの作成にも活かされた。さらに、集団 CPT については、当研究期間前に実施してきた予備試験の解析や論文文化を進めた。

マテリアル開発

CPT 心理教育マテリアルとしては、字幕付きのデモンストレーションビデオの作成、CPT 応援マンガの続編制作、CPT 導入のためのリーフレット『トラウマと心のケア～認知処理療法はなし～』、CPT 実施におけるよくある質問とその回答集、当事者団体において活用できるマテリアル、オンデマンド用の研修マテリアル等を開発した。

病態や治療機序の検討

大規模な調査の結果についても、ICD-11 や DSM-5 の診断基準比較、罪悪感、自殺念慮、感情調整、心的外傷後不適応認知など、様々な病態理解に資する検討を行い、国際雑誌や学会において公表した。加えて、CPT の脳神経及び身体的なメカニズムに関して文献を精査し、これを総説論文としてまとめた。

<引用文献>

1. Takagishi Y, Ito M, Kanie A, Morita N, Makino M, Katayanagi A, Sato T, Imamura F, Nakajima S, Oe Y, Kashimura M, Kikuchi A, Narisawa T, Horikoshi M (2022) Feasibility, acceptability, and preliminary efficacy of cognitive processing therapy in Japanese patients with posttraumatic stress disorder. *Journal of Traumatic Stress*, First published: 14 December 2022, 10.1002/jts.22901
2. Ito M, Takebayashi Y, Suzuki Y, Horikoshi M (2019) Posttraumatic stress disorder checklist for DSM-5: Psychometric properties in a Japanese population. *Journal of Affective Disorders*, 247, 11-19, 10.1016/j.jad.2018.12.086.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Che-Sheng Chu, Po-Han Chou, Shao-Cheng Wang, Masaru Horikoshi, Masaya Ito	4. 巻 2
2. 論文標題 Associations Between PTSD Symptom Clusters and Longitudinal Changes in Suicidal Ideation: Comparison Between 4-Factor and 7-Factor Models of DSM-5 PTSD Symptoms.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in psychiatry	6. 最初と最後の頁 680434-680434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2021.680434	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 伊藤正哉・杉田創・矢部魁一	4. 巻 51
2. 論文標題 心的外傷後ストレス障害に対する認知処理療法の 脳神経基盤及び身体疾患のメカニズム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Oe Misari, Ito Masaya, Takebayashi Yoshitake, Katayanagi Akiko, Horikoshi Masaru	4. 巻 11
2. 論文標題 Prevalence and comorbidity of the ICD-11 and DSM-5 for PTSD caseness with previous diagnostic manuals among the Japanese population	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Journal of Psychotraumatology	6. 最初と最後の頁 1753938 ~ 1753938
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/20008198.2020.1753938	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Chou Po-Han, Ito Masaya, Horikoshi Masaru	4. 巻 129
2. 論文標題 Associations between PTSD symptoms and suicide risk: A comparison of 4-factor and 7-factor models	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Psychiatric Research	6. 最初と最後の頁 47 ~ 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpsychires.2020.06.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujisato Hiroko, Ito Masaya, Berking Matthias, Horikoshi Masaru	4. 巻 277
2. 論文標題 The influence of emotion regulation on posttraumatic stress symptoms among Japanese people	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 577 ~ 583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2020.08.056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片柳章子, 中島聡美, 伊藤正哉, 蟹江絢子, 堀越勝	4. 巻 14
2. 論文標題 性暴力被害者への認知処理療法適用による心的外傷後ストレス障害の回復過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 97-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima Aiichiro, Kanie Ayako, Ito Masaya, Hirabayashi Naotsugu, Imamura Fumi, Takebayashi Yoshitake, Horikoshi Masaru	4. 巻 Volume 16
2. 論文標題 Cognitive Behavioral Therapy Reduces Benzodiazepine Anxiolytics Use in Japanese Patients with Mood and Anxiety Disorders: A Retrospective Observational Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6. 最初と最後の頁 2135 ~ 2142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/NDT.S263537	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi Keiko, Takebayashi Yoshitake, Miyamae Mitsuhiro, Komazawa Asami, Yokoyama Chika, Ito Masaya	4. 巻 12
2. 論文標題 Role of focusing on the positive side during COVID-19 outbreak: Mental health perspective from positive psychology.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychological Trauma: Theory, Research, Practice, and Policy	6. 最初と最後の頁 S49 ~ S50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/tra0000807	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito Masaya、Takebayashi Yoshitake、Suzuki Yuriko、Horikoshi Masaru	4. 巻 247
2. 論文標題 Posttraumatic stress disorder checklist for DSM-5: Psychometric properties in a Japanese population	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 11~19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.12.086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chou Po-Han、Wang Shao-Cheng、Wu Chi-Shin、Horikoshi Masaru、Ito Masaya	4. 巻 13
2. 論文標題 A machine-learning model to predict suicide risk in Japan based on national survey data	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2022.918667	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takagishi Yuriko、Ito Masaya、Kanie Ayako、Morita Nobuaki、Makino Miyuki、Katayanagi Akiko、Sato Tamae、Imamura Fumi、Nakajima Satomi、Oe Yuki、Kashimura Masami、Kikuchi Akiko、Narisawa Tomomi、Horikoshi Masaru	4. 巻 36
2. 論文標題 Feasibility, acceptability, and preliminary efficacy of cognitive processing therapy in Japanese patients with posttraumatic stress disorder	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Traumatic Stress	6. 最初と最後の頁 205 ~ 217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jts.22901	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件(うち招待講演 1件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 伊藤正哉
2. 発表標題 疫学・調査研究からみえるもの
3. 学会等名 第20回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤正哉
2. 発表標題 トラウマ処理に進むための準備段階 チェックリスト作成の試み
3. 学会等名 第20回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akiko Katayanagi, Kiyoshi Makita, Misari Oe, Masaya Ito, Akiko Kikuchi, Satomi Nakajima, Takako Kpnishi, Masaru Horikoshi
2. 発表標題 Development of a cognitive processing therapy program for adolescents and young adults
3. 学会等名 24th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kiyoshi Makita, Akiko Katayanagi, Misari Oe, Masaya Ito, Akiko Kikuchi, Satomi Nakajima, Takako Kpnishi, Masaru Horikoshi
2. 発表標題 Development of optional program for caregiver of adolescent and young adult patients undergoing cognitive processing therapy
3. 学会等名 24th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 牧田潔, 片柳章子, 大江美佐里, 菊池安希子, 伊藤正哉, 中島聡美, 小西聖子, 堀越勝
2. 発表標題 心的外傷後ストレス症状を呈した青少年を対象とした青少年版認知処理療法の開発
3. 学会等名 第20回日本認知療法・認知行動療法学会ウェブ開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片柳章子, 牧田潔, 大江美佐里, 菊池安希子, 伊藤正哉, 蟹江絢子, 佐藤珠恵, 中島聡美, 小西聖子, 堀越勝
2. 発表標題 心的外傷後ストレス症状の青少年を対象にした日本版認知処理療法の開発
3. 学会等名 第19回日本トラウマティック・ストレス学会ウェブ開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤正哉
2. 発表標題 トラウマに関連した様々な問題への認知処理療法の展開
3. 学会等名 第19回日本トラウマティック・ストレス学会ウェブ開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小西聖子・伊藤正哉
2. 発表標題 トラウマ・グリーフの認知行動療法の実践的展開
3. 学会等名 第19回日本トラウマティック・ストレス学会ウェブ開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 牧野みゆき
2. 発表標題 外傷後不適応的信念尺度の信頼性と妥当性の検討
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤正哉
2. 発表標題 臨床研究におけるスーパービジョンの方法
3. 学会等名 日本健康心理学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Katayanagi, Kiyoshi Makita, Masaya Ito, Ayako Kanie, Akiko Kikuchi, Masaru Horikoshi
2. 発表標題 Developing a Japanese Version of Cognitive Processing Therapy for Adolescents and Young Adults with Post-Traumatic Stress Symptoms
3. 学会等名 The 16th European Society for Traumatic Stress Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyoshi Makita, Akiko Katayanagi, Masaya Ito, Ayako Kanie, Akiko Kikuchi, Masaru Horikoshi
2. 発表標題 Development of cognitive processing therapy programs for caregivers of young people with post-traumatic stress symptoms in a Japanese context
3. 学会等名 The 16th European Society for Traumatic Stress Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片柳章子, 牧田潔, 伊藤正哉, 蟹江絢子, 菊池安希子, 佐藤珠恵, 堀越勝
2. 発表標題 認知処理療法中に再度性被害に遭ったPTSD患者の事例報告
3. 学会等名 第19回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miyuki Makino, Masaya Ito, Yoshitake Takebayashi, Harumi Yamamoto, Masaru Horikoshi.
2. 発表標題 Posttraumatic maladaptive beliefs of those who have and have not experienced traumatic experience: a secondary analysis of the national survey of stress and health in Japan.
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤正哉 (企画者・座長)
2. 発表標題 アンチ・トラウマに焦点を当てた認知行動療法：トラウマへの様々な心理療法アプローチ
3. 学会等名 第21回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

認知処理療法応援マンガ http://www.neuropsychology-kurume.jp/intro/scholarly.html PTSDに対する認知処理療法 https://www.ncnp.go.jp/cbt/research/archives/2

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森田 展彰 (Morita Nobuaki) (10251068)	筑波大学・医学医療系・准教授 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 正哉 (Ito Masaya) (20510382)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・認知行動療法センター・室長 (82611)	
研究分担者	小西 聖子 (Takako Konishi) (30251557)	武蔵野大学・人間科学部・教授 (32680)	
研究分担者	大江 美佐里 (Oe Misari) (40373138)	久留米大学・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (37104)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Duke University			
その他の国・地域	China Medical University			